

島根県アーチェリー連盟

—— これまでのあゆみ

島根県内にアーチェリー競技が入ってきたのは、昭和42年頃である。そして、昭和45年4月に「島根県アーチェリー連盟」が設立された。連盟設立以来、歴代の会長や理事長のご尽力、県内の協会や大学、高校に所属する会員の皆様、さらに県身体障害者アーチェリークラブに所属する会員の皆様の長きにわたる活動やご努力により、現在の競技の普及・発展に繋がった。そして、令和5年には、連盟設立から54年目を迎える。

その長い連盟の歴史の中で、昭和57年に開催された「くにびき国体」では、少年男女が4位、成年女子が7位、総合と女子総合では、5位入賞を果たす活躍をみせた。

「くにびき国体」以降は、競技人口の減少による競技者の確保、国体における競技のルール変更に対応するための、長距離(90m、70m、60m)を行射できる常設練習場の確保などが難しい状況になり、徐々に成績も思うように伸びなくなった。

しかし、「2030年島根かみあり国スポ・全スポ」を目指して、再び島根のアーチェリー競技の輝きを取り戻すために、小中学生から高校生、大学生、一般・社会人まで幅広い年齢層を対象として、競技力向上対策に取り組み始めたところである。

—— 現在の状況

「2030年島根かみあり国スポ・全スポ」を見据えて、さまざまな取り組みを行っている。小中学生のジュニア世代からの選手発掘・育成、強化の取り組みもその一つである。その成果として、小中学生の競技者も増えつつあり、これを機会に、競技者の底辺拡大、さらに競技人口の維持・増加へと繋げたい。



しまね未来のアスリート発掘・育成事業
(アーチェリー競技体験会)

国民スポーツ大会推進教員として、出雲工業高校に着任した、競技経験豊富な松下千華氏を中心に、高校生の育成・強化を行っている。また、松下氏自身は、成年の

中心選手でもあり、専門的な技術指導で、成年全体のレベルアップを目指したい。

練習環境の課題の一つに、常設練習場の整備がある。令和4年度末に、出雲工業高校に最大70mの距離まで行射できる練習場が整備された。(今後、松江東高校にも練習場が整備される予定) 大学生や社会人にとっては、長距離を行射できる練習場がない現状であったが、この二つが練習の



国スポ推進教員の松下千華氏

拠点になれば、少年はもとより、小中学生や成年の強化も進み、個々の技術レベルの向上が期待できる。



出雲工業高校に整備された練習場

このように国スポ・全スポに向けて明るい話題がある反面、まだ多くの課題もある。今後も「チーム島根」一丸となって、できることから一つ一つ継続して取り組むことで、成果に繋げ、2030年島根かみあり国スポ・全スポでの少年・成年の入賞を目指したい。

—— これから

競技者の底辺拡大や技術向上、指導者養成、大会運営に係る審判員養成など、島根かみあり国スポ・全スポに向けて、現在「チーム島根」で行っているさまざまな取り組みや、そこから得られた多くの成果を、本大会終了後もしっかりと次世代に受け継がれていくよう、新たな体制づくりが必要である。そうすることが、今後、さらなる連盟の発展に繋がると考えている。

やがて、次世代の新たな体制のもと、これまでの取り組みや努力が実を結び、将来、島根から全国や世界で活躍するアーチェリー選手が現れることを期待したい。